

差別のない明るい町を

# 罪を償っている人と

## その家族の人権

その2

市人権推進課（教育庁舎1階）  
TEL 32・2122  
FAX 33・3525



前号から、中学生の人権作文『一滴の涙』ある夏の出来事』を紹介しています。

「はいどうぞ」と言い、持っていたハンカチを渡した。そうすると、「ありがとうございます。ありがとうございます。ありがとうございます。」と言ってくれた。雨ではなくその顔には一滴の涙が流れていた。その時、運転手が来て「行きましょう。相手にしたら駄目です。」と言うので僕は濡れながら大声で叫んだ！「関係ない！大人なのに常識がない！おばあさんには関係ない。困っている人がいれば僕は助ける。あなたは間違っている。

加害者の親だけど、今は被害者だ！」と言った。僕は年上の運転者さんに偉そうに言ってしまったので、恐る恐る祖父の顔を見た。そうすると祖父は僕の頭を撫でてくれた。そして祖父は「運転はもういい。金はこれだ。りる。非情な人間の運転は信用ならん。孫の言う通り。これから自分で行ける。むしろ大人が次の世代を担ってくれる子どもの手本にならんとあかん。あんたは駄目だ！」と言った。運転者さんは下を向いて黙ってそこから立ち去った。

て僕たちの顔を見て驚いた様子だった。おばあさんが「事件以来優しさをもらったのは初めて。死んでも悔いはありません。」と言った。それを聞き祖父が「あなたたちは何も悪くない。だが被害者の事、そしてその被害者にも家族がいたことを決して忘れずに生きましよう。死んではいけない。息子のした事に目を背けず、しっかりと生きなさい。そして妹さん、あなたは全く関係ない。しかし兄が犯罪をする、全てを失うでしょう。しかし、人生は長い。下を向かず、お天とさんを顔いっぱい浴びなさい。」と笑顔で言う、二人とも大声で泣き出し、そして少し微笑んだ。

ながら今回のような場合はない。テレビなどの報道の仕方が悪い。犯罪は駄目だ。だから絶対に犯罪者にもなるな。そして差別をするな。分かったな。」と言われた。僕は、「絶対にしない！そして差別もしない！周りの人の言葉だけを信じるのではなく、この目で必ず確かめるよ。」と言うと、家族皆が「翔太は大人より最高だね。子どもの奇麗な心を大人になっても忘れなければ、この世は最高になるはずだね。」と言ってくれた。祖父は僕の頭をもう一度撫でてくれた。

今、あの家族はどうだろう。一滴の涙よりも「二人の間だけの笑顔」を取り戻して欲しい。

毎日のように、悲惨な事件・犯罪の様子が、マスコミで報道されています。私たちも犯罪者の家族のことも思いを馳せられる「ゆとりや優しさ・人権意識」を持ちたいものです。

参考・引用文献「アイユ」  
2013年1月15日号

### 第4回 人権教育学級

市保健センター2階（多目的室）にて開催します。どなたでも受講できます。

第4回 10月7日(月) 午後2時～午後4時  
演題『外国人と人権』

～小松島市国際交流協会の取組から～

講師 小松島市国際交流協会  
副会長 村上久美子さん

※当日、要約筆記を準備しています。  
※授乳・育児などにご利用いただける部屋も用意しております。

詳しくは、市人権推進課（TEL 32・3814 / FAX 33・3525）まで。